

令和4年度事業報告書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

特定非営利活動法人 Oneself

I. 事業総括

今年度は新規入国が再開し、留学生や技能実習生が一気に増加した。一方、コロナ禍で生活が困窮する留学生は減ることがなく今年度もそういった留学生の支援に努めた。

緊急事態宣言や蔓延防止等がなくなっても、客足が戻らない飲食店等では解雇されシフトが減少する留学生が多い。また新規入国再開で一気に増加した留学生がアルバイト先を確保するのが難しく4か月ほど経ってもアルバイトが見つからないという声もあった。そしてせっかくアルバイトが見つかって、後で入ってきた留学生のほうが日本語が上手だからという理由でシフトを減らされたりする留学生もいて入国後の生活が安定しないケースもあった。食糧品提供を必要とする留学生は同活動を開始した3年前から年々増加している。春には卒業や転居で一旦来館者が減るものの、学校の先輩に聞いたという新たな留学生が来るようになり秋頃には昨年のペースを上回っていた。一方で同活動を知ってくださった地域の方々や企業、支援団体からのサポートもあり急に来館者が増加しても対応できる状況となっていた。

そういった中で今年度も「学ぶを諦めない」ための「やどかり給付型奨学金プログラム」を実施した。

「やどかり給付型奨学金プログラム」の趣旨・目的は2020年からの新型コロナウイルス感染症によって卒業生が母国に帰国できないだけでなく、在校生は学校の授業がオンラインに変更され十分な授業時間や内容が補償されていないところもあることや2020年7月の日本語能力試験が中止になり、日本語レベルを証明する方法がなくなったため、留学生の多くは進学や就職のタイミングを失ってしまった留学生が多くいた。

一方で、進学を希望する留学生からは「試験に合格しても学費が払えるかわからない。」 「入学金の納付期限があるのにアルバイトが減らされて払えるかわからない。」という切実な声が多く聞かれた。そこでこれらの課題を解決するためにコロナで困窮する留学生を対象に給付型の奨学金を支給した。留学生が健全に勉学に励むことができる環境を提供し、コロナ禍でも「学ぶ機会」を失わない支援が必要であると考えたためだ。今年度は7名の奨学生を輩出した。同プログラムは一般的な奨学金プログラムとは違い、選考過程において企業や地域団体、地域住民、大学生、ボランティアメンバー等が多く関わっており、それぞれの視点から奨学生一人一人の意欲や積極性に触れてもらった。コロナ禍、大学生も大学生活が思うようにできなかったという状況で「地元でこんなに多くの留学生と一緒に活動し、いろいろな文化や習慣、言語を学ぶことができた。何よりも留学生が日本という異国の地でこれほど積極的に学び、日本語でコミュニケーションを取っている姿を見て自分も負けてはいられない。もっと頑張らなければならないと思った。」という声もあった。

2022年に入国した留学生の中には同国のコミュニティを必要としていて、コロナ禍の3年で人生設計が変わってしまったことで焦りを感じていたりするケースもある。神戸での留学生活が安心安全に送れるようにサポートを続けるとともに、地域住民の1人として地域に繋がり、地域住民と共に生きるまちづくりを進めていきたい。

Ⅱ. 組織運営

Ⅱ-1 会員数

- ・正会員…17名（個人）
- ・賛助会員2名 団体賛助会員1団体

Ⅱ-2 理事会及び定例会の開催

- ・総会 5月に開催
- ・理事会 団体の運営方法及び事業に関する会議 状況に応じて開催
- ・定例会 理事及び正会員で事業に関する進捗報告及び意見交換を状況に応じて開催



＊新型コロナウイルス感染症拡大により、総会は対面で行ったが、それ以降の理事会や定例会は対面で参加できる会員のみで行い、オンラインを使用して実施した。

Ⅲ. 特定非営利活動に関わる事業報告

◆Oneself 明舞日本語教室

実施日：隔週水曜日 10:00～11:30

場所：みなく一る明舞（明舞キリン堂薬局2階）

学習者：8名

担当者：日本語教師：1名・ボランティア3名

【実施内容】

明舞日本語教室では、昨年度に比べ今年度は学習者の数も徐々に戻り定着してきた年であった。学習者の年齢層が高い当教室では、授業日程や途中参加の学習者でも馴染める内容に配慮した活動となった。

理事長・教室支援者らと交えた「令和4年度教室運営」に関する意見交換では、授業日程は第2・第4水曜日の午前の90分間、教材に関しては主要テキストを使わず今まで使ってきた漢字テキストを使用する、90分の授業構成は漢字30～40分、ラジオ体操5分、作文・スピーチ・会話・プリント学習などは45分と設定した。

「漢字」の授業は教室支援者が担当し、当日習得した漢字と既習の漢字を使って熟語を作るという新しい試みも取り入れた。しかし、熟語作りに適当でない漢字もあることから毎回行うことは断念した。今後は漢字カードを使った熟語作りを試みたい。「ラジオ体操」は授業と授業の合間に行い、心身にほどよい刺激にもなるのかメンバー全員の参加が得られた。今後も続けていきたい。「作文・スピーチ・会話・プリント学習」の授業では、「桜／趣味／ファストフード」などをトピックにして作文を書いて発表した。「マイナンバーカード」の話について教室支援者と話し合う機会を設けたが、学習者が興味を持つトピックの選定には毎回苦慮した。学習者が戻った今、テキストで文法の復習をしながら合間にトピックを扱う活動をするのが望ましいことだと考えている。「プリント学習」ではコロケーションの復習や語彙を増やすなど1回の授業で消化できる量の活動を心掛けた。また、「読解」では本文の内容が理解できるだけでなく「自分の意見が言える・書ける」を目標にした。学習者が書き溜めた作文や作品が、最終的に地域の文化祭に出展できたことは、彼女達にとって励みになったのではないだろうか。次年度も引き続き文化祭出展を目標に試みたい活動である。最後に、これまでトピックを一方向的に選定し・提示する活動を続けてきたが、今後は学習者の要望に沿ったトピックを扱う活動にシフトしていきたい。まずは、学習者の要望を聞き取ることが急務である。



◆Oneself 新開地日本語教室

実施日：毎週日曜日 10:00~12:00

場所：国際交流シェアハウスやどかり多目的ルーム

学習者：4名（ベトナム・フィリピン・中国）

担当者：日本語教師3名（ローテーション）

統括1名



【実施内容】

以前と比し、学習者の総合的な日本語力アップの為、3人の教師が順番にそれぞれ別の授業を担当している。

I. 読解主体で①5W1Hで②100字以内に作文をまとめる練習。II. パソコンの使用方法を学び、短文を見本にWORDで作成、表作りなど。III. JLPT 初級レベル（N4）の文法を主体に、よりスムーズな会話力向上を目指している。特に中国から来た学習者は、前年に初めて来日し「やどかりのがっこう」でゼロ初級から日本語を勉強し始め「おはようございます」と声をかけても沈黙になるほど日本語がわからない状況で参加していたが、その後一日も休まず熱心にそして負けん気の強さと感性もありみんなの日本語1課から50課を見事に終えた。それから数か月後に新開地教室に参加してくれた。我々教師陣にとって驚きと感動ものだった。表現豊かで日本語での会話ができるようになり今後も更なる進化が期待できる。

【異文化交流事業】

◆子どもの日体験

実施日時：2022年5月4日（水）13:00~15:00

実施場所：国際交流シェアハウスやどかり内

参加者：8名 スタッフ1名

【実施内容】

入国間もない留学生を対象としたイベント。市内にまだネパール人留学生のコミュニティがないという話を日本語学校の担当者から聞き企画した。書道と折り紙で兜を作った。ひらがなで好きな言葉を書く留学生も



いれば漢字をスタッフに教わりながら書く留学生もいた。コロナ禍を経てやっと入国できたという喜びを見せてくれた。N5レベルの留学生がほとんどだったが、学校が楽しいことや初めてのアルバイトで緊張した話をしてくれた。何か困ったことがあればまたここに来ると言ってくれたので、引き続きサポートしていきたい。

◆こどもフェスタ夜市&兵庫図書館おばけやしき

実施日時：2022年8月14日（日曜日）19:00~21:30

実施場所：神戸市立兵庫図書館

参加者：留学生3名・インターン生2名

【実施内容】（インターン大学生より）

お化け屋敷の会場準備と、留学生と一緒にお化け役として参加しました。まず、会場の準備では、本棚に黒のネットをかけてお化け屋敷のコースを作る作業の手伝いをした。14メートルの長さのネットを本棚に固定



するなど、人数が必要な作業が多かったので、主催者の方々と協力しながら準備を進めていきました。本棚をうまく活用することで、お化け屋敷らしいコースを作ることができました。

次に、お化け役として黒のゴミ袋をかぶって仮装し、子どもたちや保護者の方を驚かせました。初めはなかなか驚いてもらえず、留学生にどうしたら驚いてもらえるかアドバイスをもらい、子どもたちに驚いてもらえるようにさまざまな方法を試しました。最後に、図書館の方に「このエリアが一番驚かれていましたね。」と言ってもらえました。留学生や地域の方と楽しみながら活動ができ、とても充実した時間を過ごすことができました。

◆こどもフェスタ 公園ハロウィンナイト

実施日時：2022年10月30日（日曜日）17：00～20：00

実施場所：兵庫駅南公園

参加者：留学生4名・インターン生2名

【実施内容】

前回のお化け屋敷に参加した留学生が再び参加した。屋外でのハロウィンイベントにワクワクしている様子だった。公園の中にハロウィンの飾りつけをし、薄暗くなってからイベントが始まった。御家族で体験するグループもあれば学校のお友達と参加したグループもあり、それぞれが楽しんでいらしゃった。コロナ禍でなかなか子どもさんが楽しめるイベントが少なかった中、屋外で思いきり笑ったり、びっくりして叫んだり、思い思いの時間を過ごしていた。留学生とインターン大学生も夏のイベントとは違うメイクや服装で子どもさんたちと交流できる時間を楽しんでいた。今回もインターン大学生に参加してもらった。留学生とのコミュニケーションは慣れてきて積極的に声をかけてサポートしてくれた。同世代交流も兼ねて連携団体の事業に参加できたことは良かったと思う。



◆子どもフェスタ in 和田宮さん 2022

実施日時：2022年11月3日（木・祝）11：00～15：00

実施場所：和田神社

参加者：7名・スタッフ1名

【実施内容】

国際交流シェアハウスやどかりに住んでいるベトナム人・インドネシア人技能実習生が参加。既存ブースのお手伝いをする事になり「玉こんにやく」の販売ブースを担当した。一緒に参加してくれたベトナム人留学生が技能実習生に接客の日本語をレクチャーし「いらっしゃいませ。」「いくつ食べられますか。」「200円です。」「ありがとうございました。」等の練習をしてからスタートした。お金のやり取りも徐々に技能実習生が体験し、お釣りを返す時に不安な実習生は留学生にお金を見てもらってからお客様に返す等の気遣いも見せていた。またお客様に玉こんにやくを勧める実習生もいて、大きな呼び声にふっと立ち止まってくださるお客様も多かった。事前に試食させて頂いたので「おいしいですよ。」と実習生が話していた。お客様からは「あなたは食べたことあるの?」と聞かれ「はい、今食べました。」と答え、大笑いされる一面もあったが「頑張ってるから」とりピーターもでき、完売した。日本語だけのやりとりで完売したことで達成感があったようでとても嬉しそうだった。「日本語でもっと話してみたい。」「もっと地域の人とコミュニケーションを取ってみたい。」と日本語を学ぶ意欲にも繋がっていた。



【定住外国人雇用自立支援事業】

◆国際交流シェアハウスやどかり

事業開始日：2015年7月1日

事業所所在地：神戸市兵庫区中道通 2-2-11

今年度も新たに入国した留学生や技能実習生を中心に避難訓練や防災訓練、ごみ分別の方法、クリーンステーションの場所やクリーンステーションの看板の見方を説明した。



【新型コロナウイルス感染症拡大による留学生・技能実習生支援事業】

◆やどかりフードドライブ（食料品寄付を募る）・やどかりフードマルシェ（食料品提供）

地域活動（団体連携）

2022年4月～2023年3月

助成先：ひょうご支え合い基金

年間協力先：コープこうべ・兵庫区社会福祉協議会

寄付：個人、企業

今年度で3年目となったが、卒業入学シーズンが終わり5月、6月になるとまた先輩から聞いたと食料品提供を求める学生が増える。今年度も4月は提供数がぐっと減っていたが、少しずつ増加している。ムスリムやヒンドゥー教の学生、ミャンマーや中国の学生も多い。

開催回数としては決して多くはないが、ヒアリングを通して食料品提供以外のことでも相談ができる場所だと学生が認識してくれているようだ。また、いつでもここに来れば誰かいるという気持ちがあるという話をヒアリングで聞くこともできた。フードマルシェを開催していない日時でもスタッフがいて、緊急時はここへ電話・行けば助けてくれるという場所になっていると感じた。

また今年度の助成金から地域活動へ参加する留学生への有償ボランティア代を捻出しているため、地域のさまざまな活動に参加してもらった。地域の農園で野菜を栽培し、子ども食堂やシングルマザー等の単身世帯へ届けるという活動にも参加。野菜の収穫や種まき、畝作りなどに参加をさせてもらった。母国で畑作業をしている学生も多く慣れているようだった。しかし中には収穫した野菜をバケツに投げ入れるのを別の地域の方に注意された

りする学生もいた。無償提供する野菜であっても自分ではない誰かが口にするものだから丁寧に収穫するように注意を受けた。そして、はさみを使って1つ1つ丁寧に収穫するのを見て「日本人は1つ1つの行動が本当に丁寧にびっくりする」という声を留学生から聞いた。何気ない活動を共にすることで、言葉を理解するだけでなく日本人の習慣や考え方にも触れることができ、学校では体験できない時間を過ごしているようだった。



◆やどかり給付型奨学金プログラム

〈事業趣旨〉

留学生は週に 28 時間までアルバイトが可能な「資格外活動許可」を持っているが、日本語学校の学費支払いと進学先の入学金支払いが重なる「2 年生の秋」は多くの留学生が生活費が足りず厳しい状況におかれる。中には資格外活動許可の範囲を超えてアルバイトをし、成績悪化や在留資格の取り消し等「学ぶ」ために来日したのにも関わらず「学べない」環境に陥ってしまう。この「2 年生の秋」を支えるために「給付型奨学金プログラム」を設立した。

また新型コロナウイルス感染症によりアルバイトが減少している留学生も多い。進学を希望する留学生からは「試験に合格しても学費が払えるかわからない。」「入学金の納付期限があるのにアルバイトが減らされて払えるかわからない。」という切実な声が多く聞かれた。そこでこれらの課題を解決するためにコロナで困窮する留学生を対象に給付型の奨学金を支給しコロナ禍でも「学ぶ機会」を失わない支援が必要であると考えた。

〈2022 年度給付型奨学金スケジュール〉

募集期間 5. 9~6. 10

一次選考：書類選考（小論文及び日本語学校への出席率）

二次選考：地域活動（留学生版トライやるウィーク）期間：8. 1~8. 28 のうち 2~3 回

三次選考：最終面接 9. 23（金・祝）10：00~

「留学生版トライやるウィーク」振り返り：10 月 4 日（火）13：30~

「やどかり給付型奨学金プログラム」全体報告会：10. 23（日）10：30~

〈一次選考〉

日本語学校出席率証明書の提出・小論文



〈二次選考受入先〉

株式会社神戸マツダ

ミズノスポーツサービス神戸和田岬

神戸市立兵庫図書館

兵庫区社会福祉協議会



〈三次選考〉

個人面接

〈同プログラムに参加したスタッフの感想〉

本年度から Oneself の活動に参加し今回の

やどかり給付型奨学金プログラムでは、一次選考（小論文）および二次選考（留学生版トライやるウィーク）のお手伝いをさせて頂きました。対象となったミャンマー、ベトナム、中国の各留学生の日本語習熟度は非常に高く活動を通して彼ら彼女らが今後のキャリア形成において、高い日本語能力が必須であることを自覚して日々勉強に励んでいる様子が伝わってきました。二次選考の留学生版トライやるウィークでは、企業、施設、地域の行事といった異なった環境や幅広い年齢層の日本人との関わりを通して何を要求されているか、どう動けば良いかなどを学び・判断する経験ができたのではないかと思います。また留学生に伴走してこられた日本人大学生インターンの方々も、積極的に人と関わろうとする姿にも感動しました。まさにコロナ渦での入学・就活という特殊な状況下にある大学生たちのことも応援したくなる活動でした。

【その他事業】

◆「NPO・地域貢献活動フェア」

実施日時：2023年1月18日（水）13：30～16：00

実施場所：三宮研修センター

参加者：スタッフ4名

【実施内容】

認定 NPO 法人コミュニティ・サポートセンター神戸（CS神戸）が神戸市と協働し市内5か所で開催。新たな人材の受け入れを希望する NPO 等と地域貢献活動に興味のある市民との出会いやトライアル（現場体験）の実施を目的としたマッチング会を実施。

当団体は「中央・兵庫・長田区エリア」のエリアコーディネーターを務めた。（当日のブースも出展）今年度初めて開催された同フェアは多分野で活動する NPO や地域団体が参加した。50名ほどの一般市民が参加し、さまざまな団体のブースで熱心に話を聞かれていた。当団体も同フェアで9人の方とマッチングし、2月にはトライアルとして団体の活動に参加してもらった。

